

サハラ以南アフリカにおけるコミュニティ参加型による地方開発戦略(RDS)の課題と可能性 タンザニアのコミュニティと地方開発

2005年10月24日

阪本公美子(宇都宮大学 国際学部)

東アフリカでは、貧困削減戦略を先駆的に取り入れてきた効果が期待されているが、地方(農村)における実態がその効果を左右するといつて過言ではない。このようなコンテクストにおいて地方開発戦略が注目されているが、本発表においては、とりわけ農村コミュニティと地方開発の関係を模索する。そのためにもまず、農村コミュニティの性質を、アフリカ・モラル・エコノミーの研究の動向、及びタンザニアにおける事例を中心に分析する。次に、地方開発戦略をはじめとする国家(及び国際社会)の視点を、コミュニティの視点と比較し、その乖離点を明らかにする。最後に、コミュニティと地方開発を繋げる試みでもある「ソーシャル・キャピタル」の概念、「市民社会」への注目、「参加型手法」に焦点をあて、今後の研究課題を提示する。

1. 農村コミュニティの性質

アフリカ・モラル・エコノミーの研究において、アフリカ社会の特徴として以下の2点が最も注目されてきた。第1に、インフォーマルな組織の重視である。アフリカ版のモラル・エコノミーとして「情の経済」の概念を紹介したハイデンは、25年前には「補足されない小農」(Hyden 1980)を分析したが、近年は、インフォーマル・セクターへもその議論を延長している(Hyden 2004)。第2に、生産活動に偏重した工業国と異なり、生産活動と再生産活動が密接に関わっているとともに、再生産活動が重視されている点である(Sugimura 2004)。

上記の2つ特徴を顕著に現す例として、タンザニアの農村において、収穫期に農業生産物を共同消費するさまざまな祭(儀礼)が開催されることが挙げられる。祭は、貧困削減の観点からは、特に地方の役人(エリート)によって、「収穫した食べ物への過剰消費」「労働時間の浪費」「子どもが学校へ行けなくなる」と行った理由で、しばしば批判が繰り返されている(Tanzania 1999)。他方、村人は、祭に象徴される再生産活動の重要性が、生産活動に劣らずとも勝るという認識もあり、このことは特にタンザニア海岸部では顕著であるとともに、南東部において、特に女性、及び年配の男女に強かった(阪本 2005a, Sakamoto 2005b)。また、法律による成人儀礼の規制は、年齢を低年齢化するなど、形骸化するマイナスの効果はあったものの、人びとはその継続について確固たる姿勢を取っている(UNICEF 1995, Sakamoto 2003, 中村 2005)。

2. コミュニティと地方開発戦略の乖離

世界的な地方開発のパラダイムの変遷を見ると、市場による生産セクター重視した1980年代と比較すると、1990年代の社会(再生産)セクターと生産セクターをともに重視した政策(Ashley and Maxwell 2001)は、上記のコミュニティの特徴に近づくものであったといえよう。しかし、アフリカにおけるコミュニティにおいて、人間の生命に関連する再生産活動が人びとの意識の上

で重要視されているにも関わらず、ミレニアム開発目標などに見られる貧困削減や社会開発が、世界の中でも最も「遅れている」と見なされる原因はどこにあるのであろうか。その原因は多岐に渡るが、人びとが重要と見なす「再生産活動」が必ずしも国際社会や国の政策で重要視される目標と一致しているは限らないという点も、一つの大きな理由であろう。このような人びとの認識と開発目標の一致のためにも、「市民」の役割や「参加型手法」は重要となってくる。地方開発戦略の変遷においても、市場や国家といった伝統的なアクターに加え、市民が重要なアクターとして再認識されている点を加味した上で、枠組みそのものを見直すことが重要である。

タンザニアにおける地方開発戦略を、上記のコミュニティの特質と比較した場合、経済活動の重視、「再生産活動」の定義、「市民社会」の認識それぞれにおいて乖離が見られる(2-1-1 参照)。「ソーシャル・キャピタル」の概念、「市民社会」への注目、「参加型手法」は、このような乖離を繋ぐ試みとも位置づけられるが、タンザニアにおけるそれらの展開について述べる。

3 . 地方開発戦略とコミュニティのつながり

まず、「ソーシャル・キャピタル(social capital)」の概念は、社会関係を資本として認識しており、殆どの場合それが人びとの生産活動に貢献するかどうか分析の主眼があり(Narayan 1997, Isham 2002)、再生産活動を重視した人びとに価値を無視するが多い。¹

次に、市民社会(civil society)は、タンザニアでも概念の上では、NGO (Non Governmental Organization)、専門家組織、宗教団体、労働組合、農業組合、ボランティア団体、社会的に排除されたグループの団体、政治団体、メディア、住民組織(CBO, Community-Based Organization)、法律・人権団体、調査組織など多岐に渡って含む定義がされている(Kossoff 2000, Hakihazi 2002)。しかし、地方開発戦略に見られるように、アクセスしやすいといった面で、市民社会が NGO に代表されているとみなした戦略(Shitundu 2000)が多い。しかし、タンザニアにおいて NGO が、都市に偏っていると同時に、「貧困」地域において少ないといった点(Hakihazi 2002)を考慮すると、住民組織などをはじめとした(特に「貧困」地域の)地方市民社会にも今後目を向ける必要性があるといえよう。

最後に、「参加型手法」については、プロジェクトやプログラムにおけるファシリテーターを通じた「参加型」にはじまり、世界銀行や国連開発報告(UNDP)による参加型貧困分析、地方分権に連動した O&OD (Opportunity & Obstacles for Development)、劇・歌を活用した方法(ユニセフ他)など、範疇・方法ともに多様化している。今後、さまざまな参加型手法が、人々の主体的な関心を持つ主題について、どの程度政策に影響する機会を提供しているか検討する必要がある。

以上を踏まえた上で、今後の研究課題としては、タンザニア内において「貧しい」とみなされている地域のコミュニティ・人々の多様な視点から見た「地方開発戦略」、O&OD をはじめとする

¹但し、ソーシャル・キャピタルに関する研究の中でも、最も脆弱な人びとにはグループを通しては届かない、といった調査結果は、地方開発戦略を実施するにあたって、注意が必要な点である(Hobbs 2000)。

「参加型手法」や参加型ファシリテーター、「市民社会」などを改めて調査することによって、コミュニティの視点から見た地方開発戦略のより具体的な可能性と課題を提示したい。

参考文献

- Ashley, Carolien and Simon Maxwell. 2001. "Rethinking Rural Development", *Development Policy Review* Vol. 19, No. 4, pp. 395-425.
- Hakikazi Catalyst. 2002. *Tanzania Civil Society: Towards a map*. As part of the NGO Policy Group Consultancy.
- Hobbs, Graham. 2000. "Social Capital Formation in Tanzania", *Selected Studies of Civil Society in Tanzania*, DFID.
- Hyden, Goran. 1980. *Beyond Ujamaa in Tanzania: Underdevelopment and an uncaptured peasantry*, University of California Press, Berkeley.
- Hyden, Goran. 2004. "Informal Institutions, the Economy of Affection, and Rural Development in Africa", *Tanzania Journal of Population Studies and Development* Vol. 11, No. 2, pp. 1-20.
- Isham, Johathan. 2002. "Social Capital and Consumption among Agricultural Households", Middlebury College Economics Discussion paper No. C2-C2.
- Kossof, Stefan. 2000. "Governance & Accountability in Tanzania" *Selected Studies of Civil Society in Tanzania*, DFID.
- 中村亮. 2005. 「スワヒリ海岸の成人儀礼 - キルワ・キスワニの Jando の事例より - 」, アフリカ・モラル・エコノミー研究会、名古屋大学.
- Narayan, Deepa. 1997. *Voices of the Poor*. World Bank.
- Sakamoto, Kumiko. 2003. *Social Development, Culture, and Participation: Toward theorizing endogenous development in Tanzania*, PhD thesis, Waseda University, Tokyo.
- 阪本公美子. 2005a. 「アフリカ・モラル・エコノミーの現代的視角 5 - 内発的發展との関連で - 」日本アフリカ学会第42回学術大会.
- Sakamoto, Kumiko. 2005b. "The Role of the African Moral Economy in Endogenous Development: Towards a new perspective", paper presented to the Moral Economy Workshop, University of Dar es Salaam, 18 August 2005.
- Sakamoto, Kumiko. 2005c. "Endogenous Development and Moral Economy in Africa: In relation to subsistence and democracy", paper prepared for the PEKEA (Political Ethical Knowledge on Economic Activities) IVth International Conference on Democracy and Economy, Rennes <http://fr.pekea-fr.org/Rennes/T-Sakamoto.doc>
- 佐藤誠. 2001. 『社会開発論』 有信堂
- Shitundu, Joseph L.M. 2000. *State-Civil Society Interaction in the Policy Process in Tanzania*, ESRF.
- Sugimura, Kazuhiko. 2004. "African Forms of Moral Economy in Rural Communities: From comparative perspectives", *Tanzania Journal of Population Studies and Development*, Vol. 11, No. 2, pp. 21-37.
- Swantz, Marja-Liisa. 1996. "Village Development: Who's conditions?" *What Went Right in Tanzania*, Dar es Salaam University Press.
- Tanzania, United Republic of. 1999. *Poverty and Welfare Monitoring Indicators*, Government Printers.
- Tanzania, United Republic of. 2001. *Rural Development Strategy*, Dar es Salaam.
- UNICEF. 1995. *The Girl Child in Tanzania*, Dar es Salaam.